

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873500593
法人名	有限会社 おきた建築
事業所名	グループホーム おきた
所在地	伊予郡砥部町原町370-1
自己評価作成日	平成23年9月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年9月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

管理者の地元で、職員も近所や町内の方が多く、開設当初より地域に密着しています。和風住宅を改築した造りのホームで、とても家庭的な雰囲気があります。食事も、家庭料理を心掛け、ホームの畑で採れた野菜や、地物の食材を使い毎食手作りで、利用者様にはとても好評です。医療面においても、日々の健康管理や観察を丁寧に行い、緊急時には早急な対応がとれる体制にあります。また、職員の離職も少なく、利用者様と馴染みの関係が築けています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホームの周辺は高齢化が進んでいて、地域の方が介護の相談に来られるようなこともある。利用者が一人で出かけて行かれたのを地域の方が見つけてくださり、連絡をくださったこともある。地域にあるメガネ店が事業所に来てくれて、利用者のメガネを調節して下さったり、近所の理美容院を利用する等、利用者が地域の資源を利用しながら暮らし続けられるよう支援されている。運動会時に得点板に飾るペーパーフラワー作りを続けておられる等、小学校との交流も続けておられる。  
事業所の近くに住む利用者の知り合いの方が時々訪ねて来て下さったり、入院している知り合いやご家族のお見舞いに、職員が同行して、馴染みの関係が途切れないように支援されている。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. <b>数日に1回程度ある</b> 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. <b>ほとんどいない</b>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム おきた

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

沖田 るみ子

評価完了日

平成 23 年 9 月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域の中で、家族とともに利用者様を支え合う事をふまえた理念を掲げている。管理者は、ミーティングや、日々の支援の中で家庭的である事、地域とのつながりの大切さ、生活を共にしながら支える事を職員に伝えている。 (外部評価) 事業所理念は、居間や事務室に掲示して職員が理念に立ち戻りながら、ケアに取り組めるようにされている。事業所では、理念にもとづき「家庭的な環境作り」に力を入れて、取り組みをすすめておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 開設者の地元であり、職員も近所や町内の者が多く、元々地域とのつながりが強い。散歩に出た折には、御近所の方と挨拶をかわしたり、話をしたりもする。地域のスーパーや理容室等も利用したり、地区の祭りに参加する等、地域の一員として交流を重ねている。 (外部評価) グループホームの周辺は高齢化が進んでいて、地域の方が介護の相談に来られるようなこともある。利用者がお一人で出かけて行かれたのを地域の方が見つけてくださり、連絡をくださったこともある。地域にあるメガネ店が事業所に来てくれて、利用者のメガネを調節して下さったり、近所の理美容院を利用する等、利用者が地域の資源を利用しながら暮らし続けられるよう支援されている。運動会時に得点板に飾るペーパーフラワー作りを続けておられる等、小学校との交流も続けておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域や、御近所の方の相談を受けたり、地域包括支援センター等へ繋げるなど、地域の方にも支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、様々なテーマで、事業所の取り組みを報告している。少しずつではあるが、地域の方から、アドバイスもいただいている。イベントの運営推進会議では普段出席されない家族様にも多数参加いただくことができた。引き続き多数のご家族が参加できるよう工夫し企画していきたい。</p> <p>(外部評価) 会議は、年間6回開催のうち、5回は、系列グループホームと合同で開催され、介護の講演会の内容を報告をされたり「床ずれ対策」等の勉強会等をされている。1回は、各事業所で、自己評価や目標達成計画書について報告をされている。会議には、ご家族も参加しやすいように、花見、餅つき、そうめん流しの行事と合わせて行っておられる。出席出来なかったご家族にも勉強会の資料を送付されたり、会議内容をお知らせしている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には出席していただいております、何でも相談できる関係にある。</p> <p>(外部評価) 日頃から事業所は、近隣の一人暮らしの高齢者を気にかけておられ、かかわりを持っておられる。町役場の担当者から、その方様子について問い合わせがあった場合は、情報提供をされる等して、公的機関へのパイプ役としてかかわっておられる。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 見守りを徹底し、身体拘束のないケアを実践している。玄関の施錠に関しては、職員の配置、利用者様の状況により、やむおえず施錠する場合があります。事業所内で身体拘束に関する研修も実施している。</p> <p>(外部評価) 現在、玄関は施錠されず、自由に出入りできるようになっている。気ままに出かける利用者があるような場合は、職員も気を付けて見守り、ゆっくりお話をお聞きしたり、外に出る際にはご本人が落ち着かれるまで職員が付き添うようにされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法の研修を実施した。職員個々が、気持ちに余裕を持って利用者様と関わり、常に言動に気をつけ、不適切なケアがないよう努めている。また継続して勉強会を重ねたい。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は、権利擁護や成年後見制度について理解しており、相談があれば適切にアドバイスを行うことができるが、職員の中には制度について理解できていない者もいる。今後は事業所全体で制度の理解を深めたいと思う。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず、重要事項説明書を読み合わせし、説明を行っている。疑問点に関しても丁寧に説明し同意を得ている。また、分からない事はいつでも、連絡して下さいと伝えている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族には、意見や要望は、遠慮なく伝えてほしいと話している。また職員は、来訪された方と話す場面を持つよう心掛け、意見や不満や要望をくみ取るよう努力しているが、きまった職員が対応しがちである為、職員誰もがいつでも対応できるようにしたい。 (外部評価) ご家族の来訪時、職員は、利用者の様子をお伝えしたり、又、運営推進会議で話し合った内容も報告され、意見や要望をお聞きしている。	事業所は、ご家族との関係が深まっている反面、「意見や要望を出しにくいのではないかと感じておられる。たとえば、評価機関が発行してる県内グループホームの「家族アンケートのコメント」をもとにして、ご家族の意見や要望、感想等を引き出してみるような機会も作ってみてはどうだろうか。利用する側であるご家族からの意見は、事業所を良くしていくためのきっかけにもなり、今後もご家族から引き出していけるよう工夫を重ねていかれてほしい。



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや、勤務中に話す事は多々あり、職員の意見や提案を聞いて、出来る事は反映させている。しかし不満や苦情は言い難い部分もあり、意見が出にくい場合もあるのではと思う。	
			(外部評価) 職員の入れ替わりは少なく、法人代表者や管理者は、職員個々の努力や良さを理解されており、職員の意欲向上につながっている。毎年、自己評価を行うことでケアの振り返りをされたり、外部研修への参加もすすめておられ受講した職員は、報告書を作成してすべての職員で共有できるようにされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員にとって働きやすい環境や、条件となるよう可能な事は努力している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修の案内は必ず職員に周知し、希望者はいつでも参加できる態勢にある。 また、様々なテーマで所内研修を実施し職員のスキルアップを図っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者は、同業者と交流する機会があるが、現在職員同士の交流はない。しかし職員個々が、研修等で知り合った方と、情報交換することはある。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人が納得して入居できるよう、出来る限り努力している。入所前に面談をしたり、入居後多くかかわりを持ち、不安や要望を汲み取るようにしている。また入居前の生活をよく知り、安心して生活できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>不安や困っている事、要望等は気軽に尋ねてほしいと常に伝えている。また職員は、家族様の意見を理解できるよう職員個々の力量を高める事も必要である。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様がスムーズに入居できるよう、デイサービスのように通ったり、お試しでの入居も可能である。また、入居前に職員が訪問し、馴染みながら入居できるような支援にも対応できる。常に柔軟に対応し、本人様や家族様の要望にそえる様にしている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様から職員へ、労いの言葉をいただいたりし心通わせ、いろいろ学ぶ事も多い。しかし職員の中には支援する側される側という意識の者もあり、グループホームの基本である、共に過ごし支えあい、お互いが協働できる関係づくりに努めたい。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様を共に支える為に、状態を報告したり、家族様にお願ひしたい事を頼む等、支え合う関係が築けるよう努力している。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族様にも、馴染みの方にホームへ面会していただくようお願いしている。面会にきていただいた知人の方には、再度来訪していただけるよう声掛けを行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所の近くに住む利用者の知り合いの方が時々訪ねて来てくださったり、入院している知り合いやご家族のお見舞いに、職員が同行して、馴染みの関係が途切れないように支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員も一緒になり歌を歌ったり、会話を楽しんだりし、仲の良い利用者様同士で過ごす時間を設ける等している。また、日々変化する利用者様個々の気分や、感情を注意深く観察し、利用者様同士のトラブルが生じないよう、職員が間に入り会話する場合もある。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 管理者は、退居時に今後も相談に乗れる事を告げている。また他のサービスへ移行する際には、詳しい介護サマリーを作成し、しっかり申し送り、出来る限りのアフターフォローを行っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションを多くとるよう心掛け、日々のかかわりの中で、利用者様の思いや意向をくみ取るよう努力している。また、家族様からも情報を得るよう努めている。ミーティングで話し合い検討している。 (外部評価) おしゃれがお好きな利用者や洋服の買い物に出かけられたり、毛染めをしたい利用者は、美容院に出かけられるように支援されている。日々の中で得た利用者様の情報は、フェースシートに追加して職員で共有されている。	職員は、利用者1対1でお話をする機会を捉えて、ご本人がどのような暮らしを希望されているのか等、利用者様の思いや意向を探り、アセスメントに取り組んでいきたいと考えておられた。さらなるアセスメントの充実に取り組み、より利用者主体の介護計画の作成につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に利用者様、家族様よりアセスメントシートをもとに聞き取りを行い、今までの生活歴を把握するよう努めている。また、担当ケアマネジャーや、関係機関からも情報を得るようにしている。入居後も日々の関わり中から、これまでの暮らしの把握を行い、穏やかな環境で過ごせるよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ミーティング時に利用者様ごとに話し合いを持ち、職員同士の情報交換に努めている。また受け持ち担当を決め、利用者様ごとに密な関係を築くよう努め、担当職員が責任をもって支援するようにしている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ミーティング時に意見を出し合い、介護計画を作成している。評価、立案したプランは報告説明し意見をいただくようにしている。ご家族様の意向や要望の表出が少ない為、より意見や要望を表出していただけるよう職員皆で声掛けを行いたい。</p> <p>(外部評価) 日々の介護記録には、介護計画の支援内容を記す欄を設けておられ、モニタリングを行っておられる。毎月のミーティングで職員全員で利用者の状態や支援について話し合い、評価を行い3ヶ月に1度は計画の見直しをされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別ファイルに、日々の暮らしの様子や本人の言葉、行動等細かく記録している。ケアプランの実施状況も記録するようにした。バイタルサインや、排泄の状態、食事量、飲水量等に関しても日々状況をきっちり把握し記録している。また来訪された家族様には日々の記録を閲覧していただいている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 通院介助や、入退院のお迎え、個別外出の支援、家族への食事の提供等、様々なケースや状況に対し、常に柔軟な対応がとれるよう努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 民生委員、地域包括支援センター等と協働しているが、さらに地域資源が利用でき、より良い暮らしが営めるよう努めたい。また、どのような地域資源があるのか知りたい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>協力医療機関のみならず、希望される医療機関を受診できるよう常に支援している。協力医院からは、月1回の往診があり、密な連携がとれ、適切な医療が受けれている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>協力医療機関は、24時間対応してくださるようになっている。協力医療機関の内科以外の他科受診をされる場合には、医師に利用者の健康状態や様子を伝えるための「サマリー」をケアマネジャーが作成して渡しておられる。ご家族の都合に合わせて職員が同行する場合もある。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員は体調の変化や、バイタルサインの異常を見逃さないよう早期発見に努め、変化があれば、すぐに管理者や看護師に報告対処し健康管理に努めている。また、協力医療機関の訪問看護師や外来看護師とも連携がとれており、気になる事は気軽に相談できる関係であり大変心強い。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院中は主治医、病棟看護師、家族様と密に連絡を取り合い、早期に退院できるよう働きかけ、入院によるダメージを最小限にできるようしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>重度化や看取りに関して指針を定めている。利用者様ごとに状況を見ながら、ホームがどのような支援を行えるのか、その都度検討しながら実施している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>以前に運営推進会議で「看取りについて」議題にされたこともあるが、ご家族からは「ピンとこない。イメージが湧かない。その時にならないと分からない。」というような意見も多く、現在は、利用者の状態変化時を捉えて、ご本人の終末期のあり方について話し合うようにされている。事業所は、これまでの看とり支援の経験から、ご家族との協力体制の大切さを感じておられ、ご家族の協力が得られれば事業所で看取りを支援することを考えておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 所内研修やミーティングで対応を話している。さらに、勉強会を重ね、実践力を身につけていきたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、4月と10月には消防に来ていただき、避難訓練を実施し、消火器や通報装置の使用方法も学んでいる。スプリンクラー設置も完了し、さらに安心できる環境となった。また、日頃のお付き合いの中で、近隣の方へ災害時に協力が得られるよう働きかけている。	
			(外部評価) 各居室、事務所等に防災用ヘルメットを設置され、10月の訓練時には、使用して訓練を行う予定である。又、2週間ごと日曜日に、ホーム内に設置している懐中電気の電池残量を確認されたり、漏電予防のため、コンセントの埃の掃除をされる等、火を出さないよう取り組んでおられる。停電時には、自家発電機を持っておられる近所の方の協力が得られるようになっている。運営推進会議時には、近隣の方に避難訓練の様子を見ていただき、災害時には事業所に駆けつけてくださるようお願いされている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩である利用者様へは常に敬意を払い、さりげない介助を行うよう気をつけている。しかし馴染みの関係や、言葉遣いの難しさもあり、尊厳を大切にしたい声掛けについてはさらにミーティングで再確認するようにしたい。 また、利用者様の個人情報、外部に漏らさないよう責任ある取扱いを常に話している。	
			(外部評価) 調査訪問時、職員は利用者「薬が喉に詰まるといけないので、水分を多く取りましょね」とていねいな口調で説明しながら、介助されていた。昼食後、職員が「ここでごめんね」と居間で利用者の背中に貼り薬を貼っておられる様子がみられた。管理者は、利用者様の個人情報を口外しないことを職員に話しておられる。	管理者は、職員の接遇向上に力を入れて取り組みたいと考えておられ、現在、職員に自己点検のためのアンケートを行ったところ、今後それをもとに、職員で話し合いケアの質向上に向けた取り組みをすすめていかれようとしている。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様一人一人に合った声掛けを行い、意思表示が困難な方は、表情や行動を見て読み取り対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の勤務の都合にあわせる場面も多くある。自分の時間 を過ごせる方は、自由に個々のペースで過ごしてもらっているが、やむおえない状況も時々あり難しいことがある。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 身だしなみが整えられるよう日々支援している。一緒に衣料品 を買いに行き、好みの洋服を購入する方もある。衣類を選ぶ のが難しい方へは二択にするなど自己決定を促した。引き 続き利用者様の希望を聞いたり、自己決定できる場面を作り たい。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑で収穫した野菜や、地元のスーパーで買った旬の食材を 使い料理している。野菜の収穫や、調理の下ごしらえ等、利 用者様個々の能力に応じたお手伝いをさせていただきなが ら、バランスのとれた季節感ある家庭料理を作っている。食 後は食器拭きの手伝いをさせていただいている。 (外部評価) 利用者が好まれる酢物や煮物等の和食を中心に「家庭的な 食事」となるよう心がけ、食事作りをされている。調査訪問 時、煮しめの盛り付けも彩りもよく、食欲を高めるような工夫を されていた。メニューは、職員が前日までのメニューと重なら ないように気を付けて立てておられる。利用者のお誕生日に は、その方の食べたいものをお聞きして作っておられる。調 査訪問時には、利用者も食事の下ごしらえをされている様子 がみられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 脱水には特に気をつけ、1日の水分量が1200cc以上を目標 に摂取していただいている。バランスの良い献立にし、利用 者様の食べる量や、好み、嫌いな物についても把握するよう 努めている。また、血液検査データなどからも、全身の栄養 状態をチェックしている。食事の形態も刻みやとろみをつける 等して利用者様個々の状況にあわせ調理している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後のうがいや歯磨き、義歯の洗浄、就寝前の口腔ケア ができるよう声掛けや、洗面所への誘導を行っている。一人 で実施が困難な方はひとつひとつ順を追って声掛けしてい る。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 起床時、食事前、おやつ前、就寝前に、トイレへのさりげない声掛けを行い、時間誘導を実施している。パットや紙パンツはこまめに交換し、不衛生にならないよう気をつけ、必要な方へは陰部の洗浄も適宜行っている。	
			(外部評価) 利用者個々の排泄パターンに応じて、時間をみながらトイレ誘導されている。入居時、紙おむつを使用していた方も、排泄のパターンの把握に努め、トイレで排泄できるよう誘導等して支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取に気をつけ、野菜の多い献立となるようにしている。個々の利用者様に合わせ、便秘解消の食材や果物を提供し便秘改善に向け働きかけている。また、緩下剤の効果を把握し、上手に利用しながら便秘にならないよう働きかけている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人で入れる方は見守りのみで好きに入浴していただいている。介助の必要な方は職員の都合に合わせる場面が多いが、湯加減や入浴の長さ等は、利用者様の好みに合わせ、会話したり、歌を歌う等楽しいバスタイムが過ごせるよう努めている。	
			(外部評価) 重度になっても浴槽で温まれるように、昨年、浴室にリフトを整備された。午後は、時代劇を楽しむ利用者が多く、現在、事業所では週3回、午前中に入浴するようになっている。事業所で点滴を行うような場合には、その前に入浴をすませておく等、その日の利用者の状況に合わせて入浴をすすめておられる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様個々の生活リズムや状況に応じて、声掛けをし休息を促している。冷暖房を利用し快適な安眠になるよう支援している。	
			(外部評価)	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 飲み忘れや誤薬がないよう、職員間で必ず確認し合っている。お薬手帳や説明書は、いつでも確認できるようにしており、薬の把握に努めている。薬効については症状の変化を確認しながら、随時主治医に報告相談している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様個々にあったお手伝いや、出来る事を見つけ、日々していただいている(編み物、歌、日記、散歩、体操等)。さらに日々のかかわりから、出来そうな事を見つけて、ホーム内での気分転換や、楽しみ事をおこなえるよう努めたい。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に散歩や買い物等の外出は行っている。声掛けしても拒否される事も多い。個別の外出(自宅へ帰る、お見舞い、知人宅を訪問等)もなるべく希望に沿うよう努めている。利用者様から行きたい場所の希望が聞かれる事が少なく、希望の表出に努めたい。しかし職員の手配の都合や、自動車事故の心配もあり遠方への外出は十分にできていない場合がある。	
			(外部評価) 事業所近くの団地内を散歩されたり、季節に合わせてお花見等に出かけておられる。春先には南予にドライブに出かけ、いちご狩り等を楽しまれ、帰りに喫茶店でお茶を楽しまれ、利用者はたいへん喜ばれたようだ。外出にはあまり気が進まない方も、出かけた後は「行ってよかった」との感想が聞かれる。コスモスを見に出かけた際には、俳句を詠まれる利用者もおられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様個々の能力に応じて、支援している。お金を自分で管理している方も居られる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 出来る方は、自由に電話をしていただいている。出来ない方も職員がダイアルプッシュをし、会話を楽しんでいただいている。希望される利用者様は年賀状や手紙を書いたりできるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 和風住宅を改築しており、とても家庭的な雰囲気がある。玄関には常に花や、季節感のある飾り付けを行うよう工夫している。また、においがこもらないよう換気には気をつけたり、日差しや、室温にも気を配り快適な空間となるよう配慮している。5月にはリビングの場所を移動し、更にゆっくりくつろげる空間となった。	
			(外部評価) 訪問調査時には、門から玄関まで車椅子で移動できるようにコンクリート床に改修工事をされているところであった。又、建物内の居間は、場所を少々移動させて、利用者は食堂から居間に移動しやすくなっていた。午後は時代劇を楽しまれる方が多く、放送の時間に集まって来られていない利用者に「始まってよ」と声をかけにいく利用者の様子がみられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 本人の居室、リビング等で自由に過ごしていただいている。親しい利用者同士で座れるソファがあり、会話やテレビ観賞を楽しんでもらっている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具の配置や、風通しの良い明るい部屋作りになるよう工夫している。家族様から写真や花、ぬいぐるみ、飾り物等の持ち込みもありその人らしい部屋づくりをしている。	
			(外部評価) 娘さんが書いた油絵を飾っておられたり、ご本人のお若い頃の写真を置いたり、お位牌を持って来られている方もいる。居室でラジオを楽しまれる方は、知っているような曲が流れると一緒に歌ったりされている。日当たりが良く室温が上がりやすい居室には温度計を設置して温度調節の目安にされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーのつくりではないが、手摺りを配置し、利用者様個々に、室内杖や歩行器を使用していただいたり、手引きで移動していただく等、安全に過ごせるよう配慮し、環境整備には迅速に対応している。また場所に対する混乱が無いよう、トイレの表示、自室の名札等つけわかりやすく工夫している。	